

米国経済・金融概況 (2024年10月)

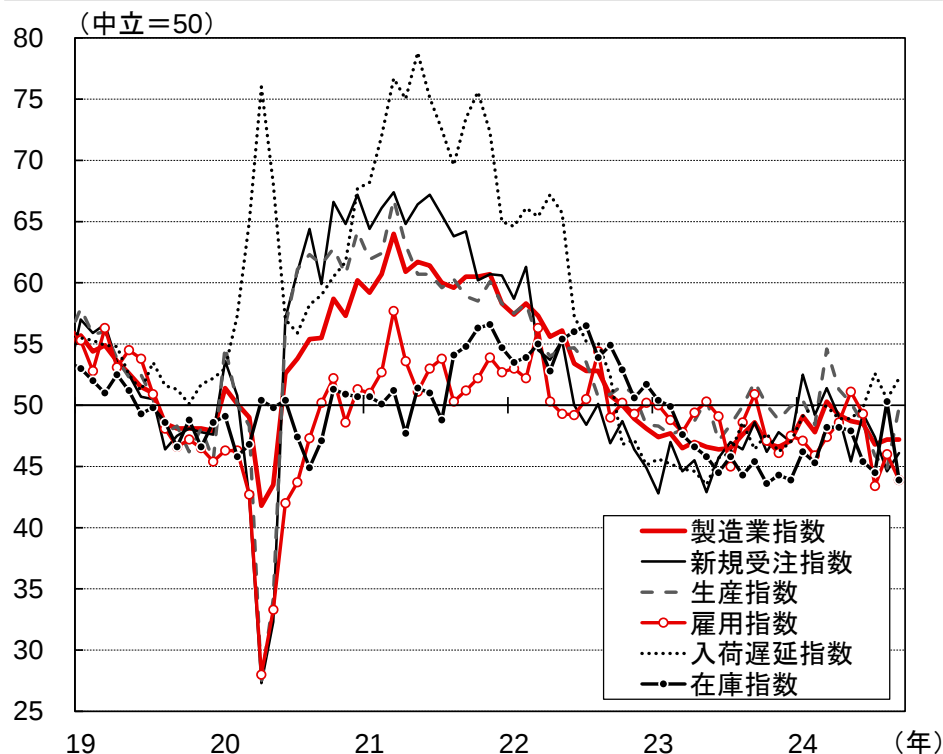
2024年10月24日

経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. 企業活動

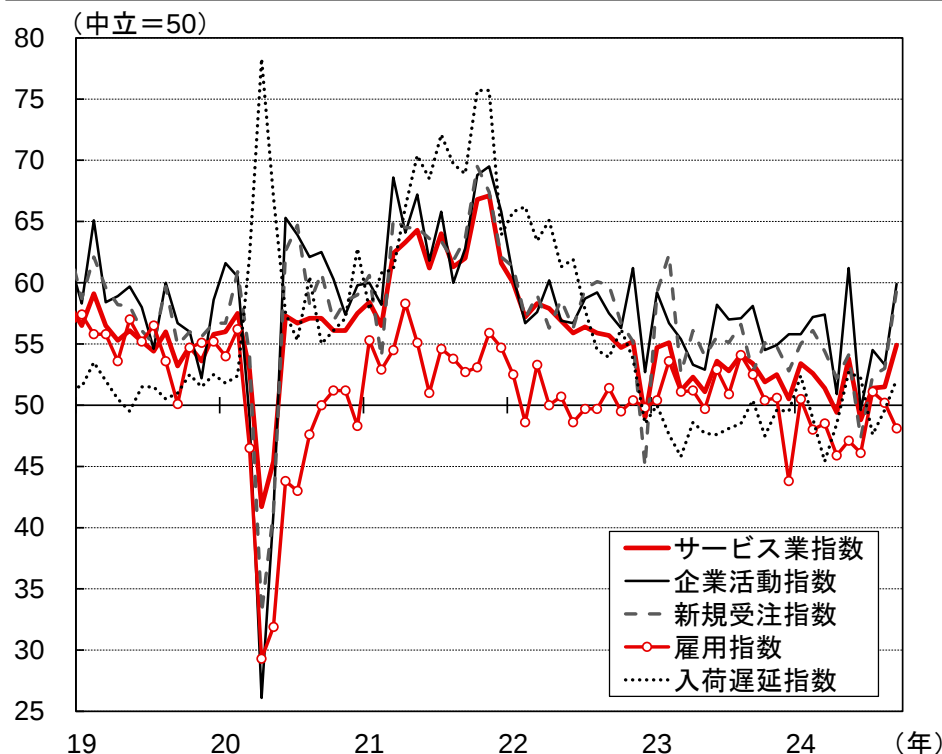
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は、9月に47.2と前月から横這い。指数の構成項目をみると、先行指標の新規受注指数(46.1、同+1.5ポイント)は3ヵ月ぶりに上昇、生産指数(49.8、同+5.0ポイント)は6ヵ月ぶりに上昇した一方、在庫指数(43.9、同▲6.4ポイント)、雇用指数(43.9、同▲2.1ポイント)は低下。金融政策と大統領選挙を巡る不確実性により、企業は設備及び在庫投資に消極的で、需要は引き続き低迷しているとISMは指摘。産業別では全18産業のうち5産業が拡大、13産業が縮小を報告(8月は5産業が拡大、12産業が縮小、1産業が横這い)。
- 9月のISMサービス業指数(総合指数)は54.9(前月比+3.4ポイント)と3ヵ月連続で上昇。雇用指数(48.1、同▲2.1ポイント)は低下したものの、企業活動指数(59.9、同+6.6ポイント)、新規受注指数(59.4、同+6.4ポイント)が大幅に上昇。回答企業のうち、小売業は売上が前年を上回り始めたコメント。産業別では全18産業のうち12産業が拡大、5産業が縮小、1産業が横這いを報告(8月は10産業が拡大、7産業が縮小、1産業が横這い)。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

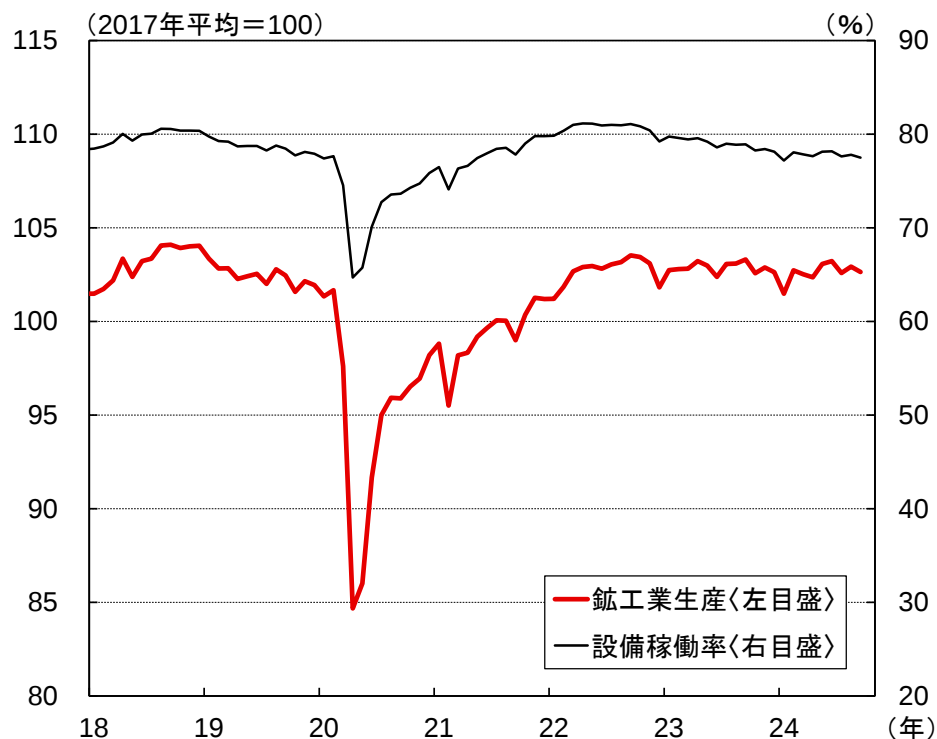


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 生産

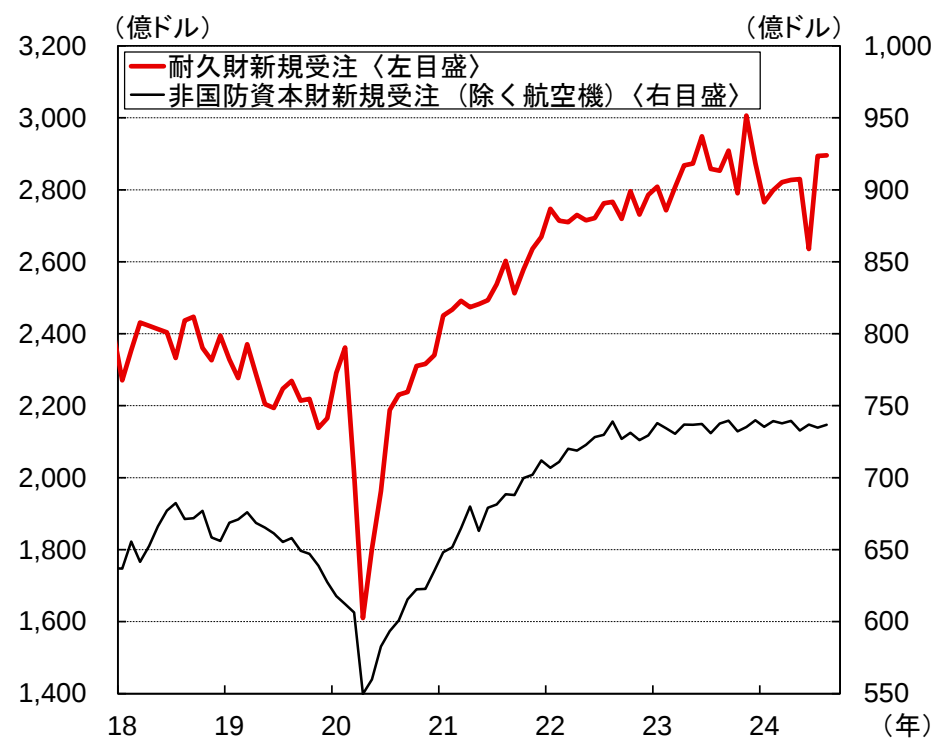
- 9月の鉱工業生産は前月比▲0.3%と2カ月ぶりに減少。ボーイング社のストライキと2つのハリケーン(ヘリーン、ミルトン)の影響が、全体をそれぞれ0.3%ポイントずつ下押ししたと公表元のFRBは推計。産業別にみると、全体の約7割を占める「製造業」(同▲0.4%)は、ストライキの影響を受けた「航空宇宙・その他輸送機器」(同▲8.3%)や「自動車・同部品」(同▲1.5%)が減少。「鉱業」(同▲0.6%)は石油・ガス採掘がハリケーンの影響を受けて減少。一方、「公益事業(電気・ガス)」(同+0.7%)は3カ月ぶりに増加。9月の設備稼働率は77.5%と前月から0.3%ポイント低下。
- 8月の耐久財受注は前月比+0.0%と横這い。内訳をみると、「電機・家電」(同+2.4%)、「金属製品」(同+0.7%)、「コンピュータ・電子部品」(同+0.4%)、「機械」(同+0.4%)は増加した一方、「輸送用機器」(同▲0.8%)は変動の大きい「民間航空機」(同▲7.5%)を中心に減少。設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同+0.3%と2カ月ぶりに増加。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料)FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

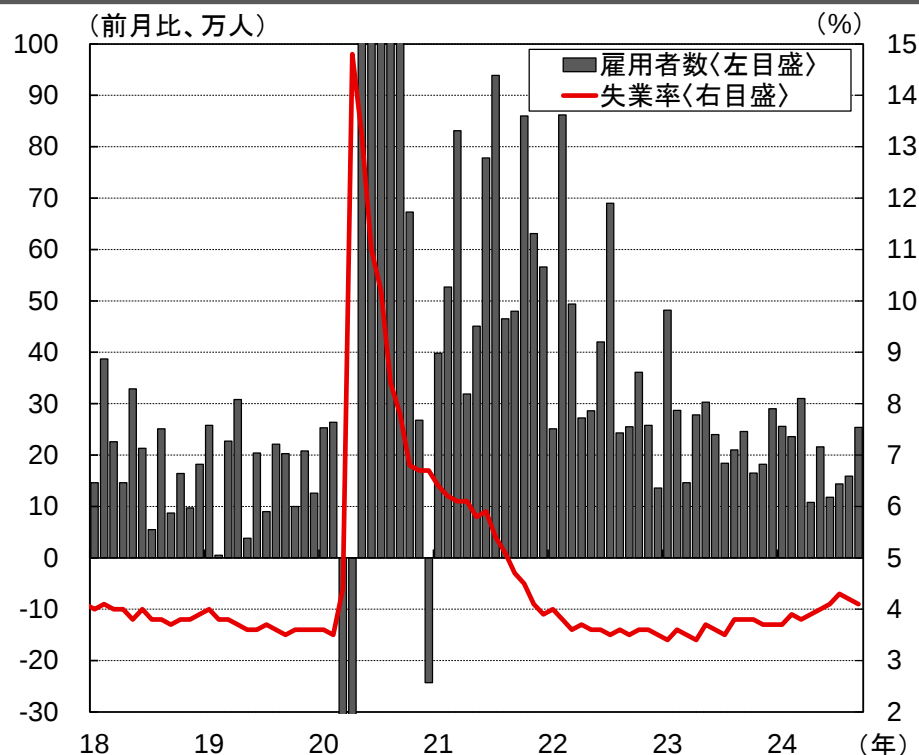


(資料)米商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 雇用

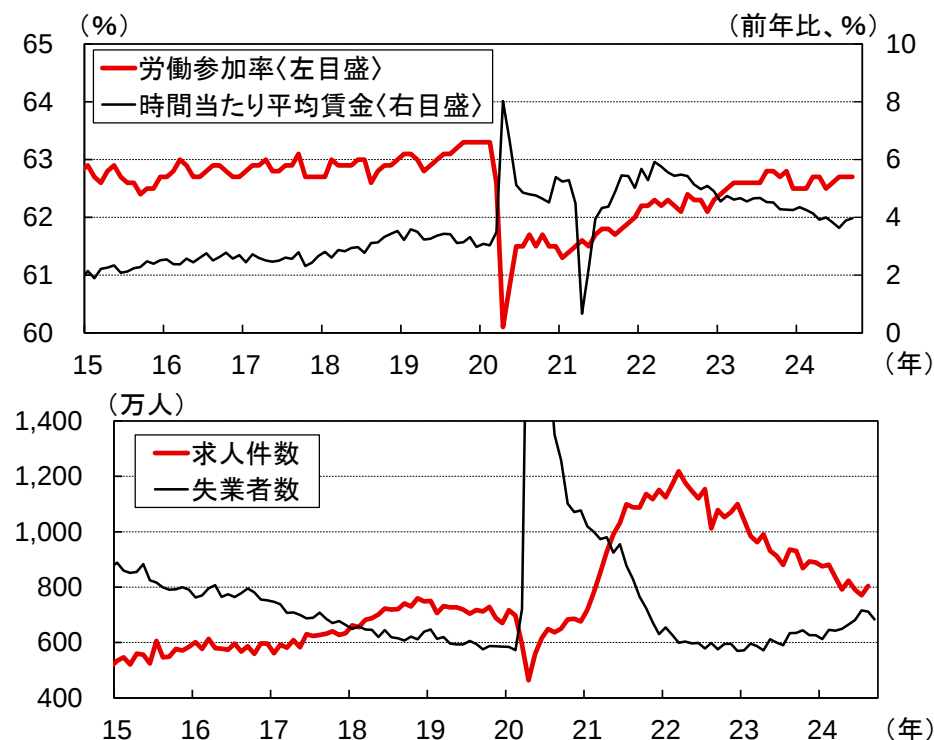
- 9月の非農業部門雇用者数は前月比+25.4万人と堅調に増加し、市場予想(Bloomberg集計: 同+15.0万人)を大幅に上回るとともに、前月(同+15.9万人、改定値)も同+14.2万人から上方修正。業種別にみると、「医療・社会扶助」(同+7.2万人)、「飲食店」(同+6.9万人)、「公務」(同+3.1万人)、「建設業」(同+2.5万人)、「専門・ビジネスサービス」(同+1.7万人)、「小売業」(同+1.6万人)等の幅広い業種で増加し、「製造業」(同▲0.7万人)は前月(同▲2.7万人)から減少幅が縮小。
- 9月の失業率は4.1%(前月差▲0.1%ポイント)と2ヵ月連続で低下。労働参加率は62.7%と3ヵ月連続で横這い。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+4.0%(8月: 同+3.9%)と小幅加速。
- 8月の求人件数は804.0万件(前月比+32.9万件)と3ヵ月ぶりに増加。求人件数を失業者数で割った求人倍率は1.13倍と前月(1.08倍)から上昇したものの、パンデミック前の水準(2020年2月: 1.22倍)を下回っている。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料) 米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移

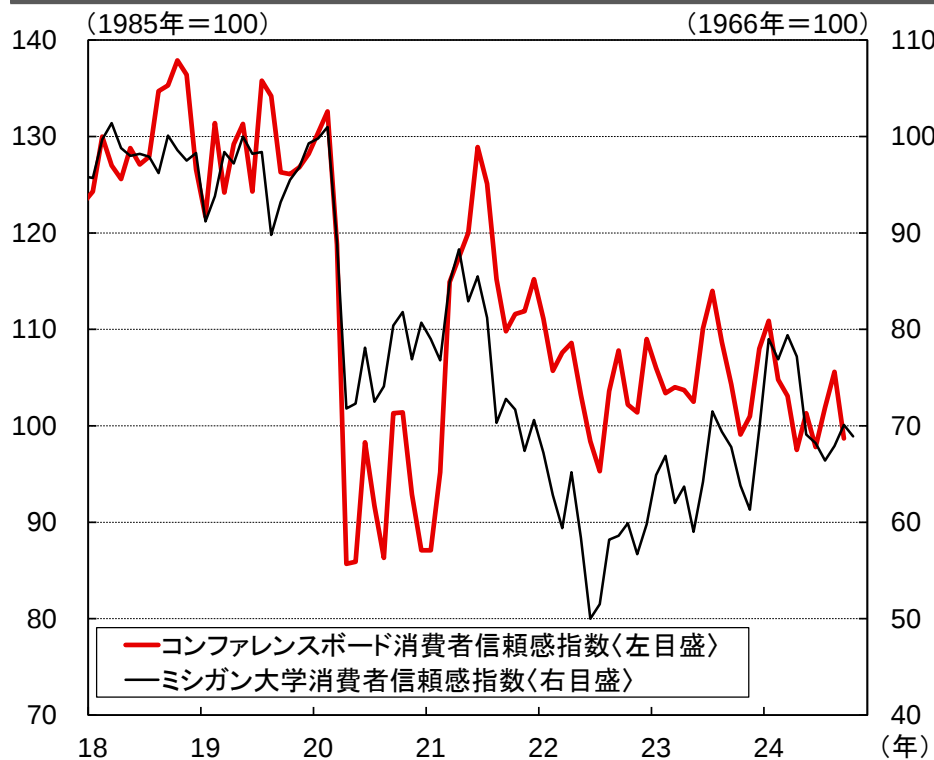


(資料) 米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 個人消費

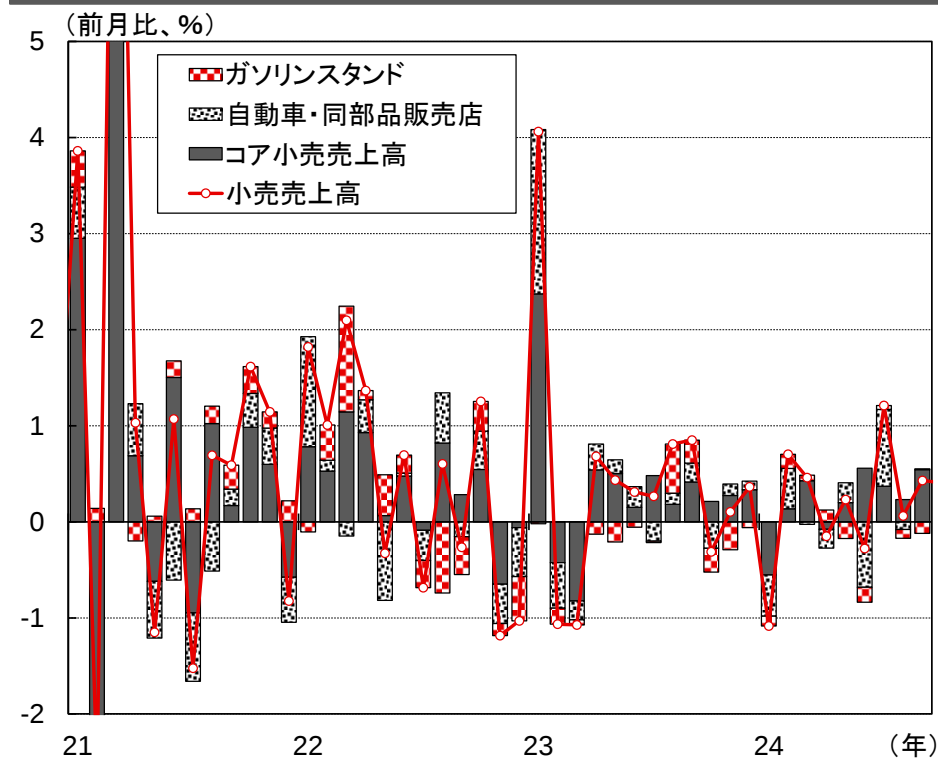
- 9月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は98.7(前月比▲6.9ポイント)と3ヵ月ぶりに低下。労働市場に対する懸念が反映されたとコンファレンスボードは指摘。また、10月のミシガン大学消費者信頼感指数も68.9(前月比▲1.2ポイント)と3ヵ月ぶりに低下。ミシガン大学の期待インフレ率は1年先が2.9%(前月:2.7%)と上昇。
- 9月の小売売上高は前月比+0.4%(8月:同+0.1%)と3ヵ月連続で増加。また、「自動車・部品販売店」と「ガソリンスタンド」を除くコア小売売上高は同+0.7%(8月:同+0.3%、改定値)と5ヵ月連続で増加し、堅調を維持。業種別にみると、「電機・家電販売店」(同▲3.3%)、「ガソリンスタンド」(同▲1.6%)が減少した一方、「衣料品販売店」(同+1.5%)、「飲食店」(同+1.0%)、「総合小売店」(同+0.5%)、「無店舗小売店」(同+0.4%)等が増加。

消費者信頼感指数の推移



(資料)コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

小売売上高の推移

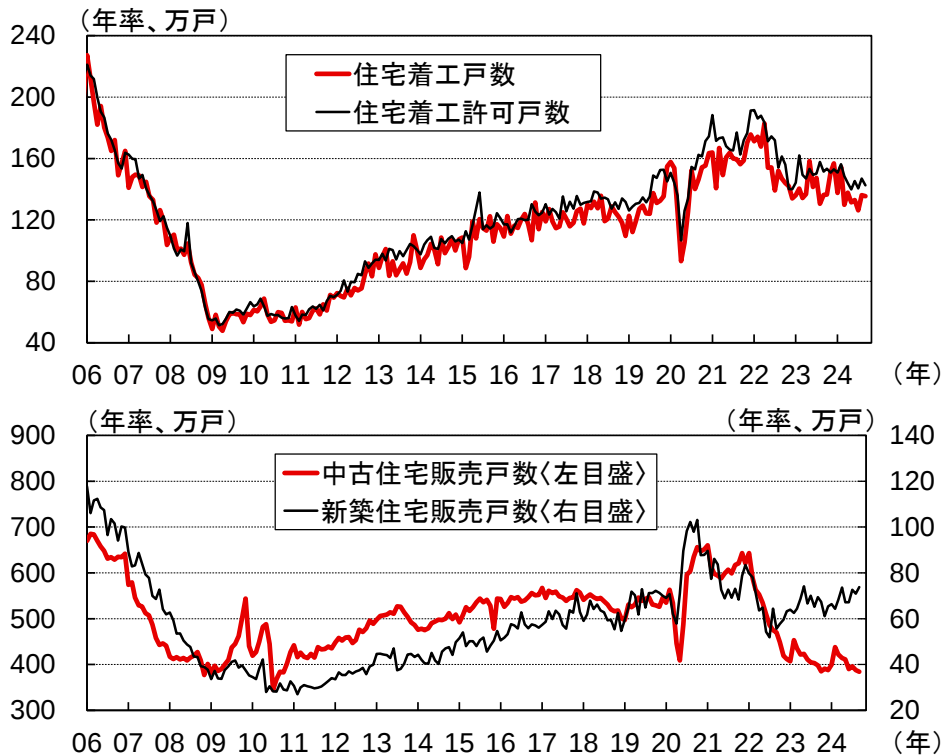


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 住宅

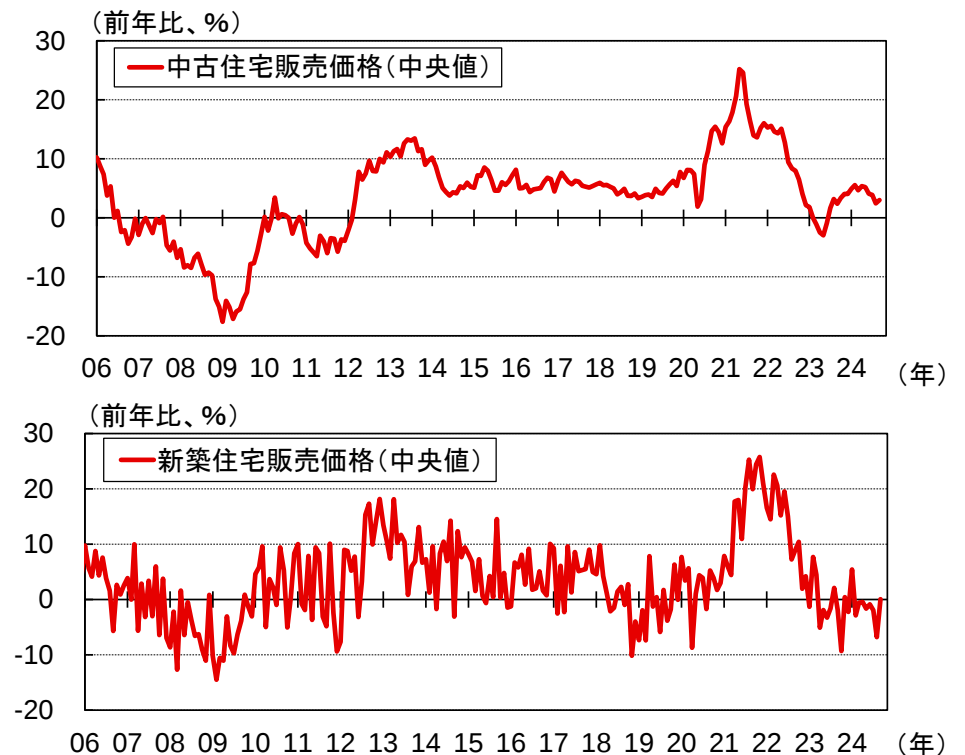
- 9月の住宅着工戸数は前月比▲0.5%の年率135.4万戸(季節調整済)と小幅減少。内訳をみると、一戸建住宅は同+2.7%と2ヵ月連続で増加した一方、集合住宅(5世帯以上)は同▲4.5%と2ヵ月連続で減少。先行指標である住宅着工許可戸数は同▲3.1%の年率142.5万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに減少。
- 9月の住宅販売戸数は、中古住宅が前月比▲1.0%の年率384万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で減少した一方、新築住宅は同+4.1%の年率73.8万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加。
- 9月の住宅販売価格は、中古住宅が404,500ドル(中央値)、前年比+3.0%(8月:同+2.5%)と伸びが加速。新築住宅は426,300ドル(中央値)、同+0.0%(8月:同▲6.8%)と8ヵ月ぶりにマイナス圏を脱した。

住宅着工戸数・着工許可戸数・住宅販売戸数の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 物価

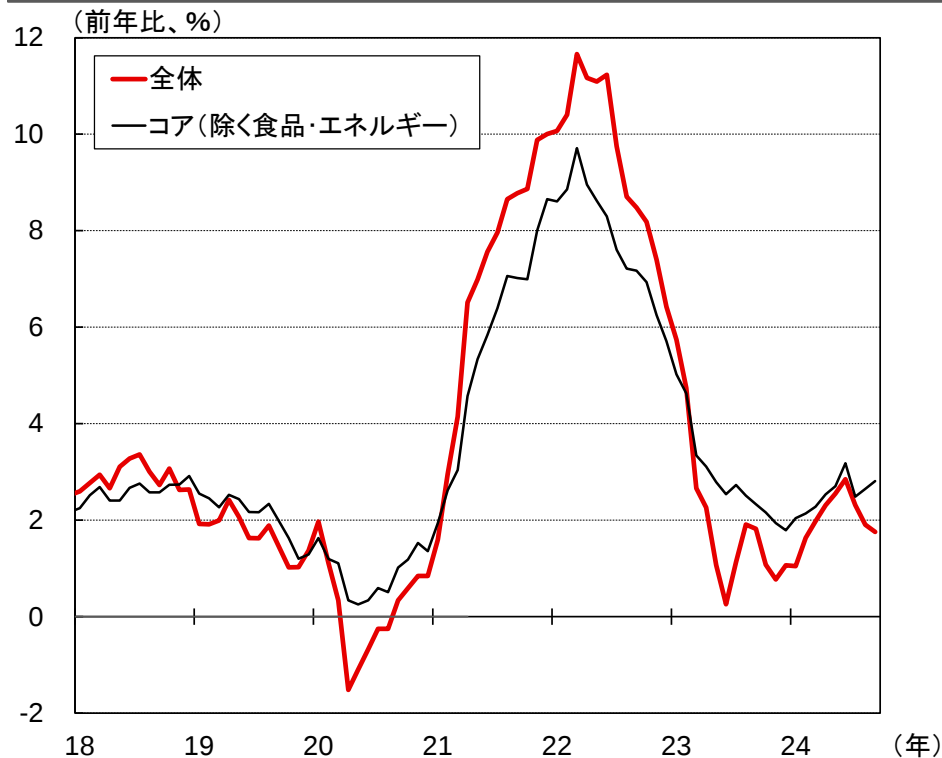
- 9月の消費者物価指数は、総合指数が前年比+2.4%(8月:同+2.5%)と6カ月連続で伸びが鈍化した一方、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+3.3%(8月:同+3.2%)と加速。品目別にみると、「ガソリン」が同▲15.3%(8月:同▲10.3%)と下落幅が拡大し、総合指数の伸びを下押し。一方、コア指数の構成品目のうち「中古自動車」は同▲5.1%(8月:同▲10.4%)と下落幅が縮小、「航空運賃」は同+1.6%(8月:同▲1.3%)と上昇に転じた。
- 9月の生産者物価指数は前年比+1.8%(8月:同+1.9%)と3カ月連続で伸びが鈍化。内訳をみると、「財」は同▲1.1%(8月:同▲0.1%)と下落幅が拡大した一方、「サービス」は同+3.1%(8月:同+2.9%)と伸びが加速。食品とエネルギーを除いたコア指数は同+2.8%と前月(8月:同+2.6%)から伸びが加速。

消費者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 国際収支

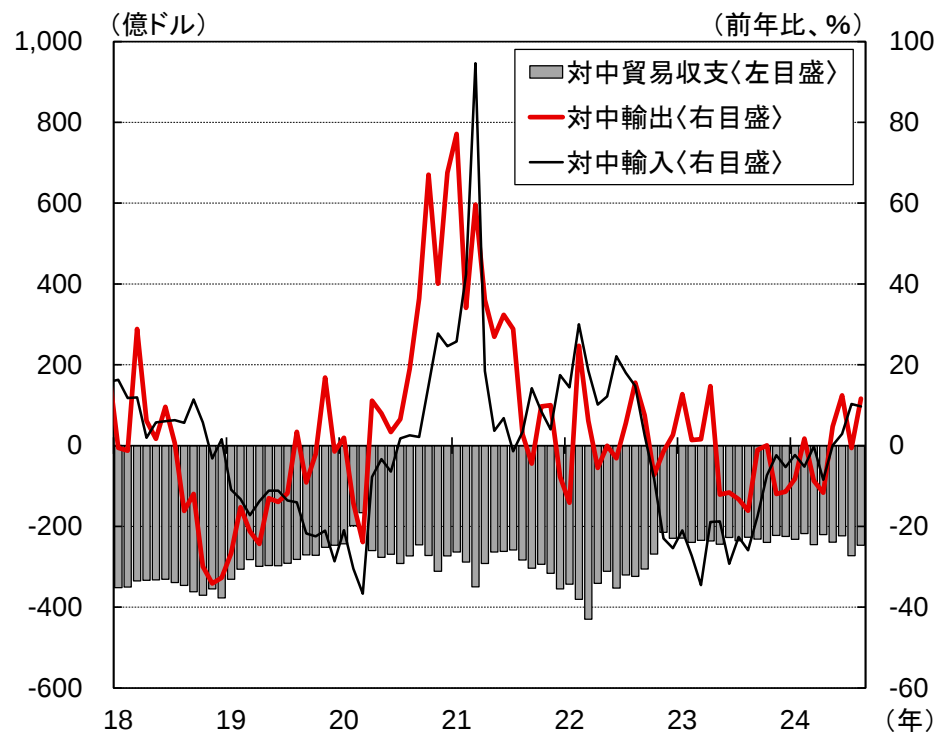
- 8月の貿易収支(財・サービス)は704億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲10.8%(同▲85億ドル)と2ヵ月ぶりに縮小。輸出は同+2.0%(同+53億ドル)と3ヵ月連続で増加、輸入は▲0.9%(同▲32億ドル)と3ヵ月ぶりに減少。前年比でみると、輸出は+5.1%、輸入は+7.6%。
- 財の貿易収支を国・地域別でみると、米国の貿易赤字(財)の3分の1程度を占める中国は8月に247億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲9.5%(同▲26億ドル)と縮小。対中輸出(財)は同+9.7%(同+11億ドル)と2ヵ月ぶりに増加、対中輸入(財)は同▲3.8%(同▲15億ドル)と2ヵ月ぶりに減少。前年比でみると、対中輸出(財)は+11.6%と2ヵ月ぶりに増加、対中輸入は+9.7%と4ヵ月連続で増加。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注) 国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



(注) 通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 金融市場動向

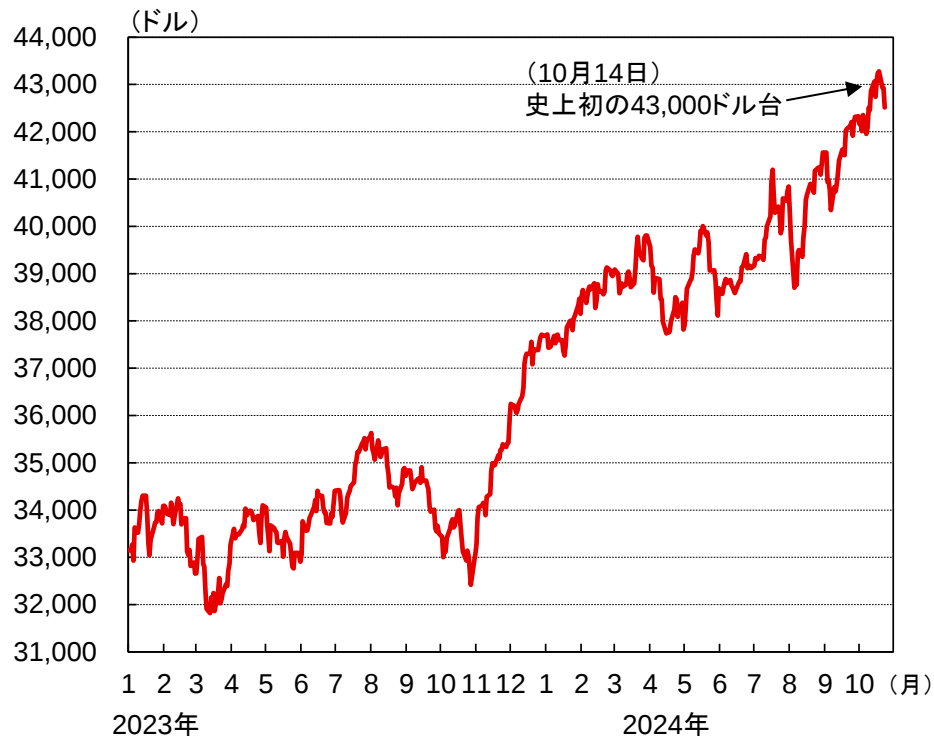
- 10年物国債利回りは、9月FOMCで0.5%ポイントの大幅な利下げを行った後は堅調な経済指標が続き、今後は緩やかなペースで利下げが行われるとの見方が強まったことから、足元では約3ヵ月ぶりに4.2%台まで上昇。
- ダウ平均株価は、景気・雇用への懸念が後退して10月半ばに史上初となる43,000ドルを突破。その後は、長期金利上昇への懸念から軟調に推移。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できる
と思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により
保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先：ウォルショー 瞳 e-mail: hwalshaw@us.mufg.jp